

I 活動の重点

自主 自立 協働

～自分からアクション 置かれている場所で貢献 離れているからこそ協働～

ときわ会全支部の中で、最西端にある上越支部。しかも、多くが自立会員として活動している。そのような中、先達は、他団体とも切磋琢磨し、ときわ人としての確かな自負をもち、地域教育の発展や人材育成に貢献してきた。今、時代は変化し、大学院等へ進む県内各地から優秀な人材が集い、新たな気風を吹き込みつつ、上越支部の可能性を高めることができる状況へと変わってきた。そのようなときだからこそ、会員一人一人が自主的に行動するとともに、学校・地域に貢献し、支部会員としての絆を深め、離れているからこそ協働するという自覚を堅持し尽力してほしい。

- (1) **自主**⇒自分からアクションを起こす、自己の力量を高めるために行動する。



先達は、厳しい環境の中でも、自主的な研修の機会をもったり、他団体とともに学んだりしながら自己の力量を高めてきた。

今、まさに「自主」の精神を大切にして、子どものため、地域のため、仲間のために、自分からアクションを起こしていく。それが、教師として、人間としての力を高めていくことに繋がる。

- (2) **自立**⇒上越を支える役割を自覚し、学校・地域に貢献する自負をもって行動する。



会員数は48人。上越地域では圧倒的少数。しかし、一人一人が上越の教育の発展に力を尽くすという自覚をもつことが重要である。そのためにも、置かれている場所で自己の役割を最大限発揮し、組織の発展に貢献できるよう活動する。

- (3) **協働**⇒離れているからこそ協働する。



物理的な距離があることは自明の理。「離れているからできない、集まらない」では、改革も前進もない。離れているからこそ、自分にできることは何か、為すべきことは何か、どのように協働できるか、それぞれの立場で考え、“ともに高め合う上越支部”の自覚のもと活動に参加・参画する。